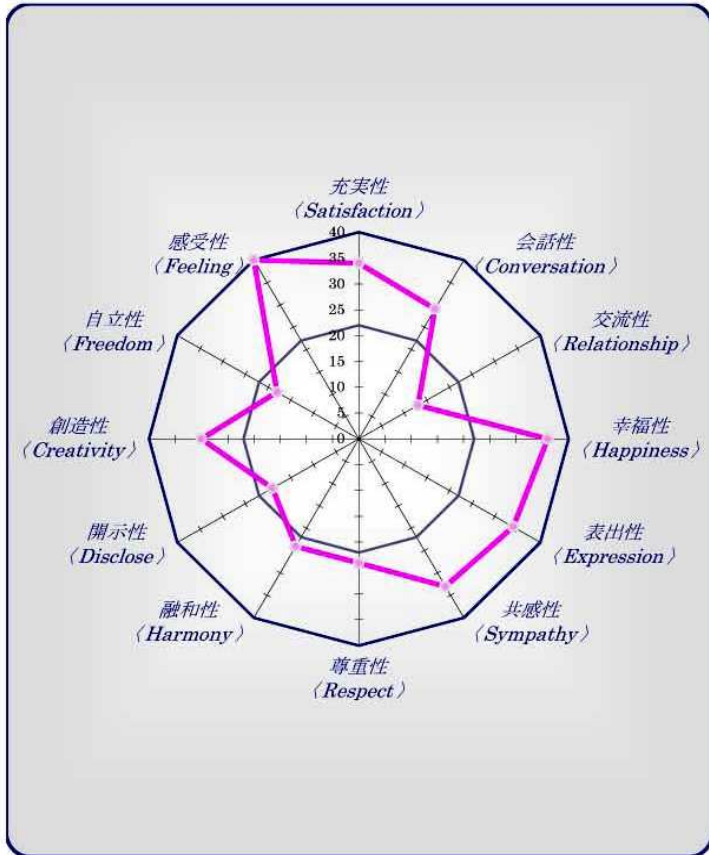


# Analysis of Communication Structure 1/3

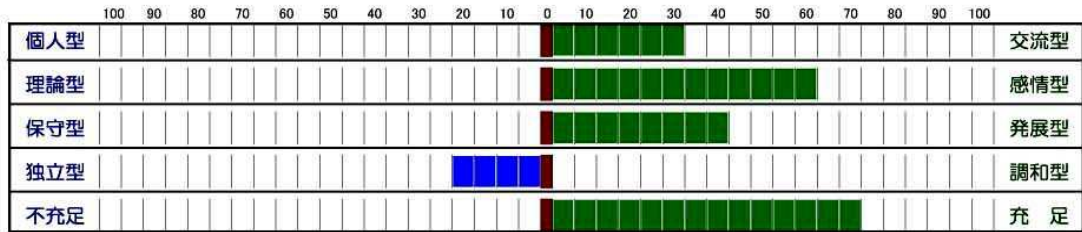
名前

山田太郎 様



充足性	会話性	交流性	幸福性	表出性	共感性
34	29	13	36	34	33
尊重性	融和性	開示性	創造性	自立性	感受性
24	24	19	30	18	40

## コミュニケーション構造の分析



【個人型か、交流型か】一人の世界を好む個人型か、多くの人との交流を求める交流型か

<b>弱い交流型です</b> 他人と交流することも楽しいのですが、一人でいることも楽しいと感じるタイプです。そのため、友人を増やすことに、それほど積極的ではありません。その代わりに、一人の時間を楽しむことができます。 友人も多く、一人の時間も楽しめるというバランスのとれた状態です。無理をすることなく、自然体のままで、あなたらしい豊かな世界を育てましょう。	交流型
	27

【理論型か、感情型か】理性的な理解が優勢な理論型か、感情の交流が優勢な感情型か

<b>強い感情型です</b> 他人との感情交流がとても豊かで、誰とも親しくなれるタイプです。ただ、自分の思いにこだわることもあるため、受け入れにくい人もいます。 自分をしっかりと保ちながら、交流も豊かだという、きわめてバランスの良い状態です。自然体を保って、より豊かな人間関係を築いていきましょう。	感情型
	59

【保守型か、発展型か】自分の世界をそのまま保とうとする保守型か、変化させ拡大しようとする発展型か

<b>弱い発展型です</b> 自分の世界に多くのものを取り入れようとする姿勢はありますが、自分の世界を大切にしたいという気持ちも強く、多くの人々の世界を自分の中に取り込むことにためらいがあります。そのため、他人との交流は少し限定されます。 自分の世界をより充実させるためには、ある程度のこだわりが必要です。自分なりの豊かな世界を作り上げることを目指せば、周りとの関係は必要に応じてできてきます。	発展型
	38

【独立型か、調和型か】自分の思いを貫こうとする独立型か、周囲の人たちとの調和を重視する調和型か

<b>弱い独立型です</b> 自分の思いがしっかりとあるために、自己主張したいという気持ちが強いタイプです。そのため、他人と協調しようとする気持ちが薄く、周囲の人たちと衝突することが起こってきます。 自分を優先したいという気持ちを大切にしながら、周りとのトラブルを起こさない道を見つかるように心がけましょう。それによって、周りとの調和を保つことができます。	独立型
	20

【充足度】現在の自分の在り方に、どれほど充足感を持っているか

<b>充足感が強い状態です</b> 現在の自分の在り方に十分満足しています。さらに、自分の在り方を反省し、客観的に自分を見ることもできます。そのため、他人に自分を押しつけることはありません。とてもバランスの良い在り方です。	充足
	70

## Analysis of Communication Structure 2/3

名前

山田太郎 様

あなたの解説

### 尺度の解説

充実性

現在の自分に充実感を持っているかどうかを見るもの。充実性が高い場合、現在の自分に自信があり、何に対しても積極的に関わり、前に進めていこうという意欲に溢れている。コミュニケーションが豊かになる。充実性が低い場合、自分に自信がなく、何に対しても消極的。

Satisfaction

自信に溢れていて、何に対しても積極的に関わろうとする意欲を持っています。ただ、自分の思いを他人にも当てはめようとする傾向があります。自分の思いが本当に他人のためになっているかどうか、冷静に考えることを忘れないでください。

会話性

普段の何気ない会話をする意欲がどれほどあるかを見るもの。会話性が高い場合、何気ない会話をするのを楽しみと感じるために、会話の量が多くなり、コミュニケーションも豊富になる。会話性が低い場合、何気ない会話を苦手と感じていて、必要なこと以外は話さない。そのために、会話の量が少なくなる。

Conversation

話すべきことは話すけれども、それ以外はあまり話さないという状態です。しかし、必要などときには、気軽に話することもできます。周囲からは、落ちつきのある良い人と思われているでしょう。

交流性

他人と一緒にいることを、楽しいと感じるか、苦痛と感じるかを見るもの。交流性が高い場合、大勢でいることを楽しいと感じ、多くの人と一緒にいたいと思う。そのために、コミュニケーションがとても活発なものになる。交流性が低い場合、他人と一緒にいることに苦痛を感じるので、多くの人と一緒にいるだけで疲れてしまう。そのために、一人でいることを好むようになり、コミュニケーションが極端に少なくなる。

Relationship

他人と付き合うことが苦手で、できるだけ一人でいたいと思うタイプです。他人といることにストレスを感じるため、誰とも深い付き合いをしないようになっています。

幸福感

基本的信頼感が豊かであるかどうかを見るもの。幸福感が高い場合、自分に対しても、世界全体に対しても、肯定的に捉える気持ちが強く、すべてを前向きに受けとめて、前進させていこうとする意欲に溢れている。そのため、対人関係は円満になり、コミュニケーションも活発になる。幸福感が低い場合、否定的な見方が多くなり、悲観的に考えたり、批判的に見るが多くなる。そのため、人間関係は緊張感の高いものになり、コミュニケーションも素直でないものになる。

Happiness

すべてに対して肯定的な見方をし、何事に対しても積極的に前向きな対応をします。ストレスにも強く、心はつねに活発です。ただし、肯定的でありすぎるために、反省することが少なく、他人の立場を思いやることを忘れがちです。注意してください。

表出性

感情表現が豊かであるかどうかを見るもの。表出性が高い場合、感情表現が豊富で、とても親しみやすい印象なので、コミュニケーションをとりやすい。表出性が低い場合、理性的な会話が多くなるために、親しみやすさは少なくなるが、しっかりした議論ができるようになる。

Expression

感情表現が豊富で、自分の心の中の感情をそのまま話すことが得意です。一緒に話をするのが楽しい人という印象を持たれているでしょう。また、必要であれば、論理的な話もできます。

共感性

他人の感情を十分に受けとめることができるかどうかを見るもの。共感性が高い場合、他人の感情を素直に受けとめることができるので、心のつながりを深めることが容易にできる。共感性が低い場合、他人の感情を受けとめることができないために、心のつながりをつくりにくく、独りよがりという印象を持たれることが多くなる。

Sympathy

他人の感情が素直に自分の心に入ってきて、他人の気持ちがよくわかる人です。周囲の人は、気持ちをわかってもらえるので、あなたと一緒に話をするのを楽しみと感じます。



## Analysis of Communication Structure 3/3

名前

山田太郎 様

あなたの解説

### 尺度の解説

尊重性

自分とは違う他人の行動に対して、他人の立場を尊重して、その行動を受け入れることができるかどうかを見るもの。尊重性が高い場合、他人の行動や仕事の仕方を見ても、その人にはその人なりのやり方があると、尊重して受け入れることができる。そのため、対人関係は円満になり、心のつながりを深めやすい。尊重性が低い場合、自分の思いが優先して、他人の行動を自分の基準に合わせようとする。そのために、押しつけがましいと思われることが多くなり、対人関係は緊張感の高いものになる。

Respect

他人の行動が自分の思いと違っていると、気になって仕方がないというタイプです。口出しできるときには必ず口を出して、行動を変えさせようとする。そのために、口うるさい人という印象を持たれるでしょう。

融和性

自分の生活文化を他人と融合するときストレスを感じるかどうかを見るもの。融和性が高い場合、生活の中に新しいものを取り入れることが好きで、他人の文化と融合することが容易なので、コミュニケーションを深めやすい。融和性が低い場合、自分の生活に他人が近づいたり、深く入ってくることに強いストレスを感じる。そのため、コミュニケーションを深めにくくなる。

Harmony

馴染みがあり愛着がある自分の世界を、変化させたくないという思いが強くあります。新しいものを取り入れることにストレスを感じ、また他人が自分の世界に近づいて影響を及ぼすことにもストレスを感じることから、対人関係の柔軟性をなくしています。

開示性

個人の内面を表に出すことにストレスを感じるかどうかを見るもの。開示性が高い場合、個人のプライベートな情報を開示することにストレスがなく、とても開放的な人となる。そのために、コミュニケーションを深めることが容易にできる。開示性が低い場合、プライベートな情報を開示することに強いストレスを感じるため、秘密主義の人という印象になる。そのために、簡単には近づけない、親しくなることが難しいという感じとなり、コミュニケーションを深めにくい。

Disclose

プライベートな情報を話すことに軽いストレスを感じます。そのため、必要以上には他人に近づかないようにしているので、なかなか人間関係を親密なものにできません。いつまでも疎遠なままということが多くなります。

創造性

自分で考える傾向が強いのか、他人任せにする傾向が強いのかを見るもの。創造性が高い場合、自分で考える傾向が強く、何に対しても自分なりの考えが出てくる。そのため、その人の本質と結びついた、しっかりしたコミュニケーションをとることができる。創造性が低い場合、自分で考えることをせず、すべてを他人任せにする傾向がある。そのため、その人の本質が曖昧になり、コミュニケーションの基礎がはっきりしなくなる。

Creativity

心の中の思いが強く、自分の思いを貫こうとする意欲があります。また、周囲の人の思いも理解できます。そのため、周囲の人たちと上手に協調していけます。まわりから信頼され、頼りにされるような、良好な関係を築くことができます。

自立性

周囲の評価や感想に縛られない、自由な心を持っているかどうかを見るもの。自立性が高い場合、周囲の評価に左右されることなく、自分の生き方を不安なく貫くことができる。そのため、対人関係では、冷たい人、他人のことを考えない人という印象になる。自立性が低い場合、周囲の評価を気にする気持ちが強く、他人に合わせようとするものが多くなる。そのために、自分の気持ちを抑えすぎて苦しくなったり、依存的な人間関係を築くようになる。

Freedom

自分を支えてくれる人がいないと不安になるタイプです。つねに自分が他人に受け入れられているかどうかを気にしているために、受け入れてもらえるようにと、他人に合わせるが多くなります。

感受性

喜びや悲しみを受けとめることが十分にできるかどうかを見るもの。感受性が高い場合、いろいろなことに感動する心を持っており、話題が豊富。コミュニケーションも豊かになる。感受性が低い場合、好き嫌いがはっきりしているので、話題が偏り、コミュニケーションの幅が狭くなる。

Feeling

感受性が非常に豊かで、いろいろなものに対して心が動き、興味・関心の幅がきわめて広い状態です。そのため、多くの人たちとの交流が楽にでき、関係を深めることもできます。